

千葉大学医学部附属病院 薬剤師レジデント制度  
相互チェック報告書

令和4年3月15日（火）

相互チェック実施担当者

山田清文（名古屋大学医学部附属病院／教授・薬剤部長）

橋田 亨（神戸市立医療センター中央市民病院／院長補佐）

百 賢二（昭和大学統括薬剤部・薬学部病院薬剤学／准教授）

## 1. はじめに

厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究（研究代表者：山田清文（名古屋大学医学部附属病院）」では、薬剤師レジデント制度の自己評価と相互チェックの体制整備を進めている。今回、令和元年度に作成した薬剤師卒後研修プログラム自己評価調査票を用いて、千葉大学医学部附属病院薬剤師レジデント制度の相互チェックを実施した。相互チェックでは、千葉大学医学部附属病院薬剤部より提出された以下の資料に基づき書面審査を実施し、次いで令和4年2月10日（木）、オンラインによりプログラム責任者ならびにプログラム担当者より臨床研修薬剤師プログラムの概要説明を受け、質疑応答を行った。さらに、臨床研修薬剤師（PGY1 および PGY2 各1名）および指導薬剤師（2名）への直接インタビューを実施した。

資料1：自己評価調査票

資料2：2022年度研修概要（案）（自己評価に基づく改定済み、研修規定を含む）

資料3：2021年度研修概要（8期生・9期生）

資料4：2020年度レジデント研修記録（7期生・8期生）

資料5：前年度のレジデント評価票・評価結果

資料6：千葉大学病院薬剤師レジデント研修について（当日の発表資料）

資料7：病院概要（千葉大学病院のご案内 2021-2022）を含む関連資料

## 2. 千葉大学医学部附属病院薬剤師レジデント制度の概要

千葉大学医学部附属病院は35診療科と病床数850床を擁する特定機能病院であり、その理念は「人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める」である。薬剤部には、2022年2月10日現在、医学部教員2名、常勤職員48名、薬剤師レジデント14名（第8期、9期生）、臨床試験部出向者2名、薬学研究院との兼務者2名、パートタイマー3名の合計71名の薬剤師が所属している。薬剤部は、1日平均約1,000枚の外来処方箋（院外率99.4%）と約400枚の入院処方箋および約780枚の入院注射処方箋の調剤に対応し、薬剤管理指導料として月平均1,335件（2020年度）を算定している。また、日本医療薬学会が認定する医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師および地域薬学ケア専門薬剤師、日本病院薬剤師会が認定するがん薬物療法認定薬剤師、日本緩和医療薬学会の緩和医療専門薬剤師の研修施設に認定されている。

千葉大学医学部附属病院の薬剤師レジデント研修制度は2年間の研修プログラムであり、2013年から薬剤師レジデントを受け入れている。毎年平均6名（3～8名）がレジデントとして採用され、現在8期および9期生が在籍している。7期までの薬剤師レ

レジデント修了者は34名を数え、うち27名が千葉大学医学部附属病院薬剤部、2名が同病院臨床試験部に就職し、他施設への就職などが5名となっている。2021年度には、薬剤師レジデント制度の自己評価を実施し、その結果を受け、薬剤師レジデント制度の理念として「薬剤師の使命と役割を自覚し、医療人に相応しい倫理観と基本的な知識および技能を備えた、生涯にわたり自律的に成長できる薬剤師を養成する」を掲げている。

研修スケジュールに関して、1年目は調剤室や注射室などの中央業務を中心に組まれているが、病棟・チーム医療見学も実施されている。2年目は半日が病棟研修に充てられ、2病棟で研修を行う。中央業務および病棟研修では到達目標がそれぞれ設定され、レジデントは定期的に到達度の自己評価を行い、到達度確認係にその結果を提出する。レジデント教育は職員全員で行うことが基本となっており、効率的に教育するために到達度確認係と病棟指導者が設けられている。また、レジデントの精神的サポートを目的としたメンター（直近のレジデント修了者が担当）も用意されている。

教育への貢献として、薬剤師レジデントは薬学生実務実習の指導を担当し、またレジデント2年目にはレジデント1年目の到達度確認や講義を担当する。さらに、研究の実施と学会発表、科研費の申請が課せられて、薬剤部セミナーで年1回発表することになっている。その他、2年目2月には修了発表会が行われ、各レジデントが業務改善提案をテーマとして発表する。薬剤師レジデントの研修内容は、研修管理委員会、レジデントWGで検討され、研修プログラムは毎年見直される仕組みができています。

### 3. 総評

薬剤師レジデント研修制度について、以下の8つの観点から総合的に評価した。

- (Pg.1) 卒後研修病院としての役割と理念・基本方針
- (Pg.2) 卒後研修病院としての研修体制の確立
- (Pg.3) 卒後研修病院としての教育研修環境の整備
- (Pg.4) 薬剤師レジデントの採用・修了と組織的な位置づけ
- (Pg.5) 研修プログラムの確立
- (Pg.6) 薬剤師レジデントの評価
- (Pg.7) 薬剤師レジデントの指導体制の確立
- (Pg.8) 修了後の進路

その結果、(Pg.1)「卒後研修病院としての理念・基本方針」、(Pg.2)「卒後研修病院としての研修体制の確立」の観点からは、それぞれ全ての中項目で適正であると判断された。特に、レジデント制度の理念が明確に規定されていないことが問題であると自己点検評価で認識すると、直ちにそれを規定して2022年度研修概要（案）に明記した点は、レジデントプログラムの質保証と改善に取り組む姿勢として高く評価される。また、

レジデントの教育は職員全員で行うという薬剤部の基本方針も大学病院として相応しいものである。また、(Pg.3)「卒後研修病院としての教育研修環境の整備」から(Pg.8)「修了後の進路」の観点からも千葉大学医学部附属病院の薬剤師レジデント研修制度に大きな問題はなく、概ね適切であると判断された。なお、(Pg.5)「研修プログラムの確立」の観点において、Pg.5.5「問題解決能力を醸成する研修がプログラムに適切に組み込まれている」では、レジデントに研究と成果発表（学会発表）が課されており、Pharmacist-Scientist を養成するための取り組みとして高く評価できる。

以上より、千葉大学医学部附属病院薬剤師レジデント制度は卒後研修として適正であり、概ね適切に運用されている。

#### 4. 改善に向けた提案

薬剤師レジデント制度の透明化と卒後研修プログラムの質向上のために、以下の項目について検討する必要である。それぞれの項目について改善策を例示したので、改善計画立案の参考にしていただきたい。また、薬剤師卒後研修プログラム自己評価調査票にコメントを記載したので、これらも参考にしていただければ幸いである。

##### (Pg.3) 卒後研修病院としての教育研修環境の整備

薬剤師レジデントのために病院内での個室性が配慮されるべきであり、この点について改善に向けた検討をスタートする必要がある (Pg.3.4.2)。個室性確保は難しい問題であるが、病院全体の問題として検討されることを期待する。なお、個室性は確保されていないものの、職員と同じ環境で研修（勤務）させるというポリシーに基づいていることは理解できる。

##### (Pg.4) 薬剤師レジデントの採用・修了と組織的な位置づけ

薬剤師レジデントが患者を担当する場合の役割と指導・確認体制を明確にする必要がある (Pg.4.2.2)。指導薬剤師の確認を必要とするレジデントの行為について、病院全体での検討が必要である。

##### (Pg.5) 研修プログラムの確立

薬剤師レジデントによる症例提示と意見交換を行う研修 (Pg.5.3.6) および地域医療に関する研修 (Pg.5.3.7) の必須化について検討されることを期待する。

##### (Pg.6) 薬剤師レジデントの評価

薬剤師レジデントの評価が適切に行われている (Pg.6.1.4) について、評価項目は明確化されているものの、4段階評価のみでは何をどこまで身に着けるべきかレジデントと評価者の間で齟齬が生じる可能性も考えられる。ルーブリック評価などを用いた評価系の立ち上げなどが期待される。

##### (Pg.7) 薬剤師レジデントの指導体制の確立

薬剤師以外（医師、看護師、臨床検査技師等）の指導者が指導を行う体制についても

検討する必要がある (Pg.7.1.4)。また、薬剤師レジデントが行う調剤、服薬指導、薬物治療管理等をチェックする体制 (Pg.7.2)、ならびに指導薬剤師の評価 (Pg.7.3) について、更なる検討が期待される。

#### (Pg.8) 修了後の進路

修了者の生涯にわたるフォロー体制について検討する必要がある (Pg.8.2.1)。修了者への連絡方法を確保し、キャリアパスを継続的に把握できる仕組みについて検討する必要がある。修了者同士のコミュニケーションの機会を設けることも有用と考えられる。

#### 5. おわりに

今回、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で業務多忙の中、薬剤師レジデント制度の自己点検評価および相互チェックを実施したことは、その質保証と改善に向けた千葉大学医学部附属病院薬剤部の積極的な取り組みとして高く評価される。相互チェックの目的は、千葉大学医学部附属病院薬剤師レジデント制度の現状を客観的視点で評価し、課題を指摘することにより、改善計画の立案の参考にしていただくことである。今回の相互チェックが千葉大学医学部附属病院薬剤師レジデント制度の質保証とその改善に役立てば幸いである。